

みつくら

令和 2年 7月15日 第318号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

改善センターに4ヵ月ぶりに歌声が響く

エコーくずまる（熊谷幸子代表）は6月4日、使用制限の振興センターにかわり、改善センターの多目的ホールで4ヵ月ぶりに練習を再開した。白藤淳一さんの指導の下、この日は8名が久しぶりに歌声を響かせた。

「3月2日からの自粛要請で各種の活動が中止になり、みんなが寂しい思いをしていたが、ようやく顔を見ながら歌の練習ができた。情報交換やさまざまな活動ができる様になって非常にスッキリした」とメンバーが話していた。

早くも熊目撃!

昨年よりも今年は早い時期から至る所で熊の目撃が多くなっている。

去る6月12日午後7時半頃に7区「前のかまど西側」にある八重樫養豚場に成獣の熊1頭が現れ、サイロの飼料を食べているのを所有者が発見し花巻署に通報した。しかし署員が駆けつけたときには既に熊は山の方に逃げてしまった。念のため、熊が近寄らないように爆竹を鳴らし、翌日も広報で何度も注意を呼び掛けた。現在のところ人の被害はないが、今年も注意が必要だ。

9区で「お話し会」再開

9区のとんぼの会（熊谷幸子会長）は6月24日、新型コロナウイルス感染症対策で3月から休止していた活動を再開し、16名が参加した。はじめに、3月に予定して中止となっていた紙芝居の5話を菅原千恵子さんが情感たっぷりに語ると笑い声や拍手も出たりして、聞いた人たちは童心に戻ったようにほっこりとした表情を浮かべていた。

その後は、みんなが歌を歌ったり近況報告の「お話し会」をして、久しぶりの楽しいひとときを過ごし、帰り際には「来月が待ち遠しな」と話しながら解散した。

また会では休止していた「元気でまっせ体操」も、6月から毎週水曜日の午前9時半から9区自治公民館で再開している。

大瀬川手芸クラブが日日新聞に載る

7月1日からレジ袋が有料されたが、6月22日の岩手日日新聞10面に大瀬川手芸クラブ（菅原重子代表）のエコバッグの作り方がイラスト入りでメンバーの写真とともに載った。

他にも、エコバッグより小さいあづま袋や布巾着も解説入りで載っており、「手芸好きが集まって平成11年から活動している。家には意外と使える物があって、それが新しい物に変わっていくのが楽しい」と菅原代表が話している。

今までに、手拭いから防災ポーチ、ネクタイからポシェット、フェースタオルでエプロンなどを作り、今月はワイシャツからかっぱう着を作ったとのこと。クラフトテープで作ったバッグの写真にどこか懐かしさを覚えた。エコバッグとともに買い物かごが復活する日が来るかもしれない。

長年利用した運動公園のプールが閉鎖

みつくら7月1日号でもお知らせしているが、大瀬川運動公園のプールは、老朽化のため令和2年度から使用中止となり閉鎖となった。

大瀬川小学校プールは、昭和35年5月に防火水槽兼用で大瀬川小学校南側にプールを設置。しかし漏水が激しくPTAが町に改築を要請し、昭和49年12月14日には大瀬川小学校プール建設促進委員会を組織した。委員は20人で、委員長は当時のPTA会長であった板垣寛さんを選出し、改築運動（実際には新築運動）の成果で、昭和50年7月に竣工。この時に濾過機械を設置して、本格的な学校プールとなった。この時のプール改築時に、石鳥谷町教育委員会は2年前に廃止となった大瀬川保育所跡にある銀杏の木も切り倒して跡地にプールを移転する計画があったが、大瀬川小学校PTAが銀杏を守る要望を強くし、伐採を免れている。

大瀬川にプールを造る運動は、昭和31年8月に山祇神社脇の葛丸川で水泳をしていた、当時大瀬川小学校3年生だった男児の事故が発端となり、毎年町教育委員会にPTAが設置を要望した結果、防火用水の名目で実現したものだった。プールが出来る前「水浴び」といって、子供達は葛丸川で泳いでいて、主な水浴び場は四十淵（しじゅうぶち）、河原場（からば）、一ノ留、山の神、白崖（百目木付近）富沢橋であった。

板垣文治（喜左衛門家）さんは水浴び場について談話の記録を残している。「今はプールが造られていますが、それまでは葛丸川で泳いで遊んでいたものです。四十淵は最も遊ばれた場所、木ノ宮の北、喜左衛門所有の林の下に有り、かわ（川）の曲がりに大きな淵（川の曲がっている部分が水の流れて岩が削られ、あぜ状の形）があり奥行きは7尺（2m）位でした。長さが40尋（ひろ）、1尋は両手を広げて手のひらからひらまでの距離）あったので、この名がついたのです。夏の暑い時には50〜60人が泳いだものですよ。

淵の上に明神様のお堂が在り、神社の名は弘淵神社（ひろぶちじんじゃ）と言って年々、林（崖の上の林）が雨の度に崩れて板垣孫一の代に私の屋敷に移しました。その後お堂が朽ちて

きたので今では家のなかに祀って拝んでいます。
 また河原場（からば）は長八（家）から川に下りると、そこには大きな岩があって周りは深い処だった。そこで近所の人泳いだものです」と語っている。

7区公民館の花壇を半分移設

7区自治公民館（畠山勝則館長）では花壇の西側半分を旧屯所跡地に移設し、駐車場のスペースとした。移設した花壇には1班の方々に花植えをお願いし、花巻市公園緑地課より頂いた「石鳥谷第7区ふれあい花壇」のプラカードも移設した。今までよりも道路沿いから綺麗な花が見えて皆さんを楽しませている。

マスク50枚を寄贈

石鳥谷地区日赤奉仕団では、町内の団員に呼びかけて200枚のマスクを作り、いしどりや荘と宝寿荘に寄贈した。

その中で日赤奉仕団大瀬川では、団員の熊谷弘子さん、熊谷ミネさん、高橋あや子さん、板垣福子さん、熊谷智恵子さん、菅原智子さん、熊谷敏江さんの7名で50枚を製作協力した。この団体では、大瀬川大火や北上川氾濫の時などに炊き出しを行っており、毎年災害時対応の研修会も行っている。

7区子供会が資源回収

7区子供会（菅原善孝地区長）では、例年行われている子供会の資源回収を6月13日に行った。今回も、一人暮らしの家庭とケアハウス千鳥苑には子供達が回収に伺ったが、それ以外の方は各自で公民館に持ち寄って頂いた。

基盤整備事業の区画図面が出される

去る6月17日に大瀬川地区基盤整備事業推進委員会（菅原教雄委員長）では、新型コロナウイルス感染症予防を考慮し、大瀬川構造改善センター多目的ホールで、盛岡広域振興局農村整備室・石鳥谷総合支所・山王海土地改良区が同席し25名の参加で推進委員会が行われた。昨年12月からの事業報告のあと今後の協議に入り、今年度は調査費が60,000千円に決定したこと、稲刈り後に行われるほ場の土壌調査や希少動物調査実施予定について報告があった。

また、1回目の基盤整備実施計画図面が提示され、推進委員で図面の確認を行い、今後はこの計画図面を各地区に提示しながら地権者と耕作者による確認と要望を協議し、今年末までに改良区へ提出する案が出された。

さらに、「基盤整備計画を進行するにあたり、ネックとなるのが未相続土地で、相続登記ができなければその部分は整備対象外となるので、速やかな登記の手続きをお願いしたい」と菅原委員長からあり、また、「登記する際のアドバイスを行うのでお気軽にお越しください」と土地改良区からも話していた。

みつくら

令和 2年 7月15日 第318号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

歴史探訪講座は「大瀬川の交通」

第64回大瀬川歴史探訪講座は、6月15日に大瀬川振興センターで26名が出席して開かれた。講座のテーマは「大瀬川の交通」で、講師の熊谷良悦さんからは交通にまつわるユニークなお話をお聞きした。

講座によると黄色い羽根で知られる交通安全運動は、昭和30年に八日市小学校の修学旅行バスが飯豊橋から転落した事故に端を発している。小学生4名、幼児1名、父兄7名合わせて12名が死亡、重軽傷者37名の大惨事で当時国会でも論議された。同年5月31日の国会で、石川榮一建設委員長は「この際、道路局長に私から質問を致したいと思いますが、去る5月14日に発生しました岩手県下の北上川支流飯豊橋において惹起致しましたバスの転落の件であります。その後、地元からいろいろと当時の陳情等がありましたが、これは必ずしも橋が悪かった為のみに起こった事故ではないと思うのでありますが、少なくともあの橋は、木橋で、非常に腐朽しておいて、主要な国道の橋梁としては非常に危険な橋でありまして・・・(以下略)」。これがきっかけとなり飯豊橋は永久橋に掛け替えられ、砂利道であった国道の舗装も進んだのであった。大瀬川では父兄として参加していた佐々木クラ(渡里竈家・菅原繁さん方から富沢の大喜竈家に嫁がれた)さんが死亡、上朴田家の藤原重次郎さんが、写真屋として同乗していて意識不明が続いた後7年間に亘って筋金入りのコルセットを着用せざるを得ない重傷を負っている。この事故を契機に全国に黄色い羽根運動が展開されたという。「そうだったなあ」と思い出すことが多い講座であった。

市文化財課が自生花菖蒲園を調査

花巻市では、6月中旬から7月にかけて大瀬川自生花菖蒲園の調査を行った。この調査は、市教育委員会文化財課が、花菖蒲の開花時期と種子の関係を調べているもので、1週間毎に3回花卉に印をつけて、秋にその種子を実証するという。1回目の調査は白色のリボン、2回目は赤色のリボンなどと色別に結びつけていた。

7区で猪の被害

今年も7区で猪の被害が続いている。久保竈家では、自宅の東側に有る水田の畦が掘られ、水が漏れる状態に。大穴(地名)にある長八家のブルーベリー畑は周辺が掘り起こされるなど被害が多発。6月23日には久保家の前の小麦を猪8頭の群れが荒らしているのを目撃。また7月6日には向竈家付近の葛丸川に猪の死体(成獣)が上がり、市役所が処理している。

ゆかり人講演会で国際ボランティアを学ぶ

第22回大瀬川ゆかり人講演会は、7月4日に30名が出席して大瀬川構造改善センターで開かれた。テーマは「ふるさとから世界が見える」で講師の高橋寛さんから国際ボランティアについて学んだ。

高橋さんは「JICAシニアボランティアとしてカンボジアに派遣されたのを機に、東南アジアの貧困にあえぐ児童の援助を続けてきました。限られたボランティアのみではなく、関心を抱いている多くの方々と何回も海外に出かけることで、国際ボランティアの輪を広げることが出来ます」とプロジェクターを使って分かり易く話して頂いた。カンボジアにボランティアで高橋寛さんと訪れた板垣幸夫さん、福子さん夫婦、板垣敦子さん、石森昌子さん達も講演会に参加し、その内、板垣幸夫さんと石森昌子さんからも講話を聞いた。

高橋さんは、新堀にお住まいで、花巻中学校長のあと岩手大学客員教授などを経て現在JICAシニアボランティア岩手県OB会長を担っている。

7区の一斉清掃

花巻市一斉に行われる春の一斉清掃が新型コロナウイルス感染予防で6月28日に変更となり、当大瀬川地区も朝6時から7・8・9区がそれぞれの区域に分かれて行った。

8区と9区はそれぞれの道路に分かれ、清掃活動後は流れ解散となっているが、7区では毎年清掃活動をしながらの留付近に全員が集合。今年も、区長(畠山智明さん)から新任の挨拶や大瀬川線の工事状況の報告の後、お茶の他に区長が用意したマスクとゴム手袋セットを受け取って解散した。

釣り大会初めての中止

6月28日予定の大瀬川淡水魚愛護組合(菅原昇組合長)主催の大瀬川ニジマス釣り大会(54回目)が、新型コロナウイルス感染予防のため初めての中止となった。

今まで雨で水量が多い時や天候が悪くても中止はなかったので残念であった。それでも淡水魚愛護組合では来年のために、大瀬川子供育成会(菅原一禎会長)の子供達10名と保護者で、ヤマメの稚魚790匹を放流した。例年の放流場所はポケットパーク付近だったが、今年は雨が続き足場が悪いため、下流の山祇神社付近での放流となった。

また、同組合では放流後に組合員15名が葛丸川景観を守り来年に備えるため釣り場付近の両岸と中州の草刈りを行った。

携帯電話中継局に落雷

6月16日午後3時40分頃に7区の東北道脇にある携帯電話会社のアンテナに落雷があったようで、この電話会社の契約者のスマホやパソコンが通信障害となった。この事故を携帯電話会社に連絡するため、電波の届く石鳥谷道の駅近くに行ったり、固定電話で連絡をとろうとしたがなかなか上手くいかず、結局連絡がつくのに3時間以上もかかった。

その後、日付が変わる頃ようやく復旧したが、普段何気なく使用している携帯電話が、今回半日以上使用できなくなり不便さを痛感した。

色とりどりの花を期待して花壇に花苗植え

6月14日に第8区自治公民館(板垣勇悦館長)では運動公園の南斜面花壇にペコニア、アゲラタム、サルビア、マリーゴールドの4種類550本の花苗を植えた。当日の当番は2、3班で34名が朝日の射す花壇に集合。板垣館長から「新型コロナの影響でこれが初めて皆さんに挨拶する機会となりました。綺麗な花が咲くように丁寧に植えてください」と挨拶があった。また、今年からは葛丸の農村環境を守る会との共同事業となったので畠山勝榮運営委員の合図で花植えとなった。事前に役員がマルチで床を張っており作業は30分ほどで終了。この場所は大瀬川で一番目立つ所なので花が咲くのが楽しみである。今回の参加者には、それぞれの団体からお茶が配られて得した様な気分になって帰途に就いた。

事務室 (お気軽ににお入り下さい)

○普段何回も通っていても、気づかない事がある。それは一ノ留橋欄干の真ん中にある葛丸川流量計が新設されていたことである。「いつ設置されたの?」と菅原原文さんに聞いたところ「平成30年11月です」とのこと。何と一年半も気づかなかったのだ。この流量計は、毎日定時に測定結果を自動送信しているという。国土交通省が管理し、治水管理のために数多くの河川流量計が設置されているとのことだ。葛丸ダム完成までは、一ノ留橋の上流20m付近に水位計があって菅原昭二さんが記録計を管理し国に報告していた。

○大瀬川振興センター駐車場の南側に4月20日に再びラーメン店が開店した。米澤商店の事務所として暫く使用していたが、4月初めから改装していたので気になっていた。看板にラーメンの文字が掲げられ、早速食べに行った。店長にお勧めを聞いたところ、看板通り「札幌味噌ラーメン」で、こだわりは「本場の味噌を使用していることです」とのこと。

メニューは8種類でギョーザと唐揚げもあり、麺は太麺で出汁はアッサリしており山盛りのネギが乗っていた。味は少し甘めでおいしかった。また、箸は割箸ではなく「生育の早い竹を使用した、環境にやさしいお箸です」と包装に書いてあった。この場所は以前「もっこりラーメン花巻店」が、その後平成29年2月まで「葛丸スタミナラーメン YAMA A」であった。